

## ある絵本との出会いから

まどか管理者の菅さんから「ちょっと見てほしいものがあるんだけど」の一言からその出会いとそれに続く思いが始まりました。

英語版の柔らかい色使いの絵本、そしてそれを和訳した絵本。驚きました。和訳し製本までされた方はまどか利用者のAさん。いつもにこやかにされている方です。若い頃に30作品ほど和訳し製本されたそうです。さっそく1冊持ち帰らせていただき、自宅で楽しく読みました。

まどかの利用者さんお一人おひとりには若い頃頑張って築かれた経験がおりだと思えます。戦争を経験された方も多いです。苦労しながら培われた強さや積み重ねてこられた日常の重さ等……。まどかの台所でボランティア作業しながら背中で耳にする皆さんの会話から、そんな状況をたくさん知ることができます。

現代では珍しい嫁としての苦労をされた方、社会へのアンテナを高くして活動をされた方、働きながら得た資格で誇りをもって仕事に励まれた方、子どもたちに手品や手遊び等教えられた方、本当に枚挙に限りがありません。日常をあわただしく過ごしていると、かかわっている方の“今”しか見えない傾向が世の中にはあると思えます。お一人おひとりの“まるごと”築かれた日々に触れる大切さを改めて強く実感しました。

私は以前、ヘルパー、ケアマネジャーとして20年ばかり介護業界で働きました。個人宅がメインでしたので、まどかの集団での経験は初めてでした。それぞれに不自由さなど抱えている事情は違います。小さな摩擦などもあるようです。でも、皆さんその方なりの思いやりを示しながら共に時間を過ごされているように感じます。忘れることが多くなっても、できることが少なくなっても、培ってきた逞しさは何よりの個性だと思えます。

私がまどかにうかがい始めて10年以上過ぎました。正直からだがつらかったり、面倒だなと思う日もありますが、しかし、忙しく立ち働く職員さん、利用者さん、それぞれに“今”があり、紡いできた過去があります。その“まるごと”にふれあえるのがボランティアの醍醐味かなと最近思うようになりました。



私も今年は後期高齢者の仲間入りです。幸せを感じたこと、つらく悲しかったこと、逃げずに頑張ったこと、いろいろあります。そして、人の気持ちをたびたび傷つけたこともあります。すべて私の“まるごと”です。